

## 延岡市立西小学校の学力向上への取組

### 1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査の結果から見た課題

#### (1) 学力調査結果からの課題

- 国語科では、説明的文章と比較して文学的文章の読み取りの到達度が低く、文脈に即した内容の理解と記述、人物の心情の理解、比喻表現等の力を高めていくことが課題として挙げられた。
- 算数科は、基礎的な計算問題はよくできているが、数量関係の立式や複雑な面積を求める問題を苦手としている傾向が見られた。

#### (2) 意識調査結果からの課題

- 全ての項目に渡って学習に対する意識のばらつきが見られた。
- 読書習慣は、1か月に読む本の冊数が県の平均に届くことができなかった。
- 家庭学習を自分自身の力で取り組む姿勢が不足している。また、ゲームをする時間が県平均より多いという結果が出ており、生活リズムの改善が必要である。

### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

- 「基礎学力」の内容（読む・聞く・書く・話す・計算する）といった学習の基礎的な技能を定着させる。
- 基本的な生活習慣も含めた基本的な学習態度を定着させることで、学びに対する意欲や学びに対する態度を育てる。

#### (2) 教育課程内の取組

##### ① 国語科と算数科を中心とした学習指導

###### <問題解決的な学習指導過程>

- つかむ・見通す・調べる・まとめる・たしかめるなどを基本とし、見通しをもち筋道を立てて考える力を育てる学習指導過程を児童にも意識させることができた。
- 児童の興味・関心を引き出すことが学びに対する意欲を高めることにつながると考え、発問を工夫したりグループ活動を取り入れたりすることで、話し合いにも意欲的に取り組む児童が増えてきた。

###### <全文視写を取り入れた読み書きの一体的指導>

- 改行の仕方や会話文の書き方などをきめ細かに指導することで、日記や作文でも正しい文章を書くことができるようになってきた。
- 低学年段階では、教材文の全文を授業の中で指導しながら視写させることで、読む力も付いてきた。

###### <音読先習による指導>

- 国語科において年度当初より新出漢字を読む練習を行わせた。読む力を伸ばすためには、まず漢字を読めるようにすることが大切であると考えたからである。また、既習の漢字についても平行して音読してきた。6年生においては、3年生段階からの音読を実施している。

##### ② 学習態度の育成

###### <自分の考えをもち、発表するための手立て>

- 発達段階に応じた基本的な話型表を作成し、各教室に常掲し、具体的な発表の仕方を示していった。その結果グループや少人数の話し合いでも自信をもって発表できるようになってきた。

###### <『学習態度育成週間』の設定>

- 下表のような項目を教室にカード形式で掲示することで、意識して学習態度の定着を図った。なお、この項目については、週間中、自己評価カードを用いることで意識付け

を図ってきた。

月曜日・・・チャイムの合図で黙想しよう
火曜日・・・机やロッカーの中をきれいに整頓しよう
水曜日・・・姿勢に気をつけて学習しよう
木曜日・・・鉛筆を正しくもってていねいに書こう
金曜日・・・休み時間に次の学習の準備をしよう

この結果、恒富中学校ブロックで共通実践している三つの約束の一つである『チャイム黙想』も定着し、落ち着いて学習に臨む姿勢が身に付いてきた。

### (3) 教育課程外の実践

#### ① 校時程の工夫

- 月曜日の朝の活動の時間（8：05～8：15）で漢字テストを全校的に実施してきた。また、水曜日と金曜日については教師の指導のもとで、漢字ドリルと計算ドリルに取り組みさせた。また職員朝会を実施する時間（8：15～8：25）には、読書活動を取り入れることで、読書活動の推進に努めた。この結果、漢字を書く力や読書に対する意識の高揚が見られた。

#### ② 『恒富中学校区意見発表会』への積極的な参加

- 日頃学習してきた成果を発表する場として、各学年より代表1名を選出し、意見発表会に参加している。全文視写や日記指導の成果もあり、どの学年も素晴らしい発表を行うことができた。

#### ③ 校外における作品発表への積極的な参加

- これまでに取り組んできた作文や習字などをさまざまな場で発表させることで、成就感を児童に与えるだけでなく、今後の学習への意欲付けを図ることができた。

### (4) 保護者・家庭・地域との連携

#### ① 『学習の手引き』の作成と啓発

- 家庭学習の進め方を作成し、全家庭に学級懇談会を利用して啓発してきた。手引きの内容としては、家庭学習で行うべき内容の例やノートの使い方の約束、そして、目標となる各学年段階における学習時間の目安を示した。この結果、家庭学習が充実してきた。

#### ② 地域への発信

- 『西っ子フェスタ』や『運動会』などの学校行事の場を通して、児童の学習への取組を幅広く発表してきた。その結果様々な学習に対して、地域の方々の学校に対する積極的な協力が見られている。学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てようとする気運が高まってきている。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- 16年度までの課題を解決していく研究を進めた結果、18年度の学力検査では、国語、社会、算数、理科全ての教科において県平均を大幅に上回る成果を見ることができた。
- 国語科の授業研究と常時指導を一体化した指導の結果、読む力が高まり、他の教科についても大きな飛躍につながった。
- 算数科については、問題解決的な学習指導過程を児童にも意識させて取り組ませたり、少人数指導の進め方を工夫したりする中で、かなり高い達成率をあげることができた。

### (2) 課題

- 全体的な底上げはできたが、現段階ではまだ個人差が大きい。したがって、より底辺の児童の力を伸ばす必要がある。また、上位の児童をさらに発展させていく必要がある。
- 本研究の成果は、十分に見られたが基礎学力を身に付けさせるためには、確実に指導を継続していくことが大切である。今後もこれまでの研究の成果と課題を整理し、今後の指導に生かしていきたい。